

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2022年9月

第101号

## 主な予定

松葉幼稚園

園内ガイド

9月20日(火)、

22日(木)

11:00~13:00

久保田先生

トラップ調査補助

9月30日(金)

10月1日(土)

T-KIDS シェアスクール

昆虫標本展示&森の昆虫博士養成講座

金児 道代

8月13日(土)~14日(日) 柏の葉 T-SITE において、こんぶくろ自然の森の「昆虫」をテーマにしたイベントが開催された。13日は、台風8号が関東を直撃したにもかかわらず、沢山の来場者が集まり、両日で300人程になった。小さなお子様連れの家族が多く、会場は「虫祭り」さながら。熱気あふれる2日間となった。

### 1. 「昆虫標本展示」について

まず目を引くのは、千葉県昆虫談話会から寄贈された1016頭の標本(11目127科556種)。8箱の標本箱に収められ整然と並んでいる様子は、なかなかの迫力。

「これゼーんぶ、こんぶくろの森にいるんです。」という会員たちの言葉に「へえー!!」といくつもの驚きの声があがり、それぞれの「押し虫」探しが始まった。

顕微鏡コーナーでは、蝶の羽の鱗粉が魚の鱗のように並んでいたりと、ヤモリの指がストライプの構造になっていることなどが観察できた。生き物の造形の美しさと不思議さにどんどん引き込まれる人々。スズメバチの顔のアップを見て、泣き出す子もいた。

そして子供達の一番人気だったのが、「生体観察コーナー」で、アゲハ蝶の幼虫4種類とカブトムシが用意された。「ひゃあー! やわらかいね〜」「かわいい!」「ウンチいっぱい」「どんどん食べるねー」とますますヒートアップしていた。





「さあ、クイズです。この子は、大人になったらどれになる？」と聞けば、一生懸命ラベルを読んだりして、「これかな？」とすぐ隣の標本箱から、答えを見つけていた。

それからとても意外だったのは、ディスプレイの手作りバッタ（素材：シュロの葉）に興味津々な人が多かったこと。「これなに？」

「どうやって作るの？」「欲しい！」「作ってみたい！」と特に子供達が凄い勢いだったので、即席で教えることになった。自分の力で生み出したバッタは、ことさらカワイイ様子。とてもうれしそうに連れて帰っていました。

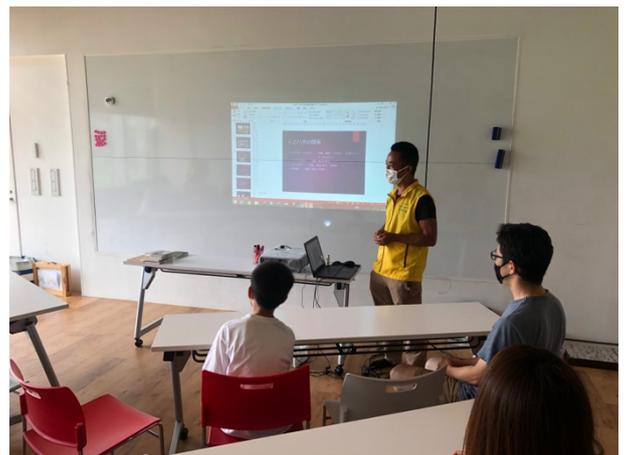
会場の子供達を見ていると、「変わらないもの」ってあるのかもしれないと思う。言い換えれば、これから時代が進みどんどん生活スタイルが変化するとしても、「ヒトが受け継いでいくもの」あるとしたら、それはなんだろう？それはきっと、生き物を大切に思ったり、自分の手で何かを作り出したいという気持ちなのかもしれない。

## 2. 「森の昆虫博士養成講座」について

展示スペースの隣の教室では、2回の講座が行われた。講師は、会員の徳永さと子さんと小川幸夫さん。事前申し込みをした博士の卵たちが集まり、約40分の間真剣な眼差しで聞いていた。

まず、徳永さんの紙芝居のはじまり。

「こんぶくろの森には、どんな昆虫がいるのかな？」と語りかけながら、どんどん引き込んでいく。ハンノキやイボタノキにやってくる虫たちの紹介などがあった。



次に「カブトムシが少ないのは、なぜだと思う？」聞く人に考えさせながら、いま森で起こっている「ナラ枯れ」やその現象を引き起こす「カシノナガキクイムシ」の独特な生態の話へと進んだ。

次に小川さん登場。「ハチに刺されたことがある人いますか？」という問いかけから始まった。「年間の死亡者数は、どのくらいか」「ハチがヒトを刺すのは、どんなときか」「どうしたら刺されないか」さらに「刺されてしまったら、どうすればよいか」と具体的でわかりやすく、安心できる内容だった。

両講師は、この講座で同じメッセージを発信しているように感じた。時にヒトにとって不都合な行動をする昆虫たち。そんな虫たちとどうやったら共存していけるのか。敵視したり制圧したりすることを繰り返しては、問題は、解決しない。

「よく観察をして、みんなですっかり考えよう！」そんなメッセージが込められているように思った。

この地球上での昆虫の歴史は、4億8000万年。人類は、700万年。生き残りにかけては、昆虫達の方がはるかに先輩でたくましい。いつか逆転現象が起こらないとも限らない。

「とある休日、昆虫たちが家族でショッピングや食事を楽しんでいる。建物の一角では、あるイベントが行われていて、にぎやかな声が聞こえてくる。吸い寄せられるように近づくとそこには・・・かつて繁栄を極めた人類の標本がズラリ！」

そんな空想は、シュールすぎるだろうか？



## 平成四年夏季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

## 俳句の部

春の森赤い若葉のしたたかさ	あおは もゆ
雲雀の声青き空に届けよ願い	あおは もゆ
草茂るこまい花にもおしべとめしべ	あおは もゆ
虫追えば木間に光る星涼し	あおは もゆ
嫌われてもひたすらに生きるスズメバチ	かわせみ
月のない闇間に灯るカラスウリ	かわせみ
夏の日にありいっぱつでつかまえた	しばたえいと
信長のほんのうじにも夏がきた	しばたそうし
詩作り試行錯誤の熱帯夜	権兵衛
鬼アザミ退治の手には豆ふたつ	昇多
ヒグラシの 声に誘われ 夕涼み	中川 望
蝉しぐれ 夏の夕 (ゆうべ) の 宴 (うたげ) かな	中川 望
静寂を纏 (まと) ってひらくカラスウリ	秀夫
野分過ぎ忙 (せわ) しく鳴くやツクツクボウシ	MMZ
紫が頭 (こうべ) を競う花擬宝珠	やま男
ツリフネがピンクに揺れる草の海	やま男
真っ直ぐに水面を走る翡翠色	やま男
蝉むくろ路傍に寄せる原爆忌	吉清
膝の上狭間むなしく猫の影	吉清
ボランティア我が老春のこんぶくろ	米山 要
江の島で旅人食すしらす井	米山 要
時季来れば柏あづみ野渡り鳥	米山 要
浅き夢覚めて朝顔咲き初むる	わらしべ

## 短歌の部

新緑の池のほとりでウグイスの 習わぬ経の美しき声	イチケンサンバ
静寂やハウホケキョウと説く譜に 救いたまえと祈り願わん	イチケンサンバ
タニシすむせせらぎにしようこんぶくろ 蛍乱舞する故郷のごと	イチケンサンバ
藤棚や直射日光遮 (さえぎ) って そよ風楽し午後のひととき	イチケンサンバ
照りつける日差しを分かつ涼風は 夏の名残の森を鎮める	かわもこ
たのしみは夜ねるまでの一時間 かわいい愛犬と遊んでいる時	Q太郎
お盆過ぎ雑木林の奥の方 ひときわ高く蝉の合唱	権兵衛
百年の 森に育てと 汗流し オニアザミ抜く 初夏の里山	中川 望
四度目のワクチン接種午後三時 アロハにサンダル麦わら帽子	ノー・ボール



- ・ 9月15日の「広報かしわ」に手賀沼流域フォーラムのイベントとして掲載予定
  - ・ 9月18日(日)の合同活動日にどの程度、範囲で観察場所と園路を刈り込むかを確認
  - ・ 10月8日(土)の里山活動日に園路と観察エリアの刈り込み
  - ・ 10月15日(土)下見
- (3) 「里山保全活動体験会」(11月)の準備状況について
- ・ 開催日時
    - ① 11月6日(日)自然調査活動
    - ② 11月12日(土)里山保全活動
    - ③ 11月20日(日)自然調査活動および里山保全活動
    - ④ 11月26日(土)里山保全活動
  - ・ 10月15日の「広報かしわ」に掲載予定
  - ・ 9月22日までにチラシ原稿を作成し、9月25日頃に印刷200部発注
  - ・ パレット柏(20部)、KAMON(20部)、UDCK(20部)、県民プラザ(20部)、柏の葉サービスコーナー(20部)へ配布、尚、田中近隣センターは工事中のため要確認
- (4) 「(千葉学ブックレット)池物語」増補版について
- ・ アドバイザーの先生方、編集者からは増刷について了承済み
  - ・ 4ページ(2枚)追加し400冊発注する
  - ・ 編集員会を組織し追加文面を検討する
- (5) 来年度予算申請についての公園緑地課への回答について確認
- (6) 新花暦(今月のこんぶくろ池自然博物公園)の取扱について
- ・ 上田さん作成の新花暦は既にHP掲載済。KAMON、県民プラザへは新花暦(QRコード付)を掲示。また、ハンドブックからの抜粋版は管理棟前に掲示する。
- (7) ハチの巣への注意喚起について
- ・ ポスターを2種類作製
- (8) 9~10月活動計画について確認
- (9) 9月の通信記事について確認

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

## 編集後記

7月の「夜の昆虫観察会」に続き、8月は「昆虫博士養成講座」と昆虫標本の展示イベントをT-KIDSで行い、夏休み向けのイベントも無事終了しました。

昆虫標本という新しい宝物がNPOに増え、前回UDCKで行った大人向けのイベントに続き、子供たちにも大いに喜んでもらうことができました。

金児さんの記事にもありましたが、標本のみならず生きたカブトムシやアゲハ蝶の幼虫にみんな大興奮でしたし、シュロの葉で作ったバッタも大人気でした。今度このバッタを作る工作教室(ワークショップ)をやっても面白いなと思っています。

やっぱりみんな「虫が好き」(金児さんの写真集のタイトルです)なんですね。(萩原秀夫)

